

## 相国寺境内発掘調査現地説明会資料（2回目）

平成16（2004）年11月28日

調査地 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701  
調査期間 2004年6月21日～11月30日  
調査面積 約1,300㎡  
調査主体 財団法人京都市埋蔵文化財研究所

### はじめに

相国寺境内の北東に位置する承天閣美術館が増設されることとなり、工事に先立って発掘調査を実施しています。前回10月24日には、桃山時代相国寺の塔頭寺院である「劫外軒」や「禁裏御用水」について現地説明会を開催しました。以後、下層の調査を進めたところ、飛鳥から奈良時代にかけて営まれた集落を検出しました。

### 遺構

検出した遺構は、以下の通りです。

飛鳥から奈良時代 竪穴住居跡20棟  
掘立柱建物跡1棟  
柵2列  
その他1

### 遺物

飛鳥から奈良時代にかけての土器類・鉄滓・轆（ふいご）の羽口・砥石・瓦が出土しました。

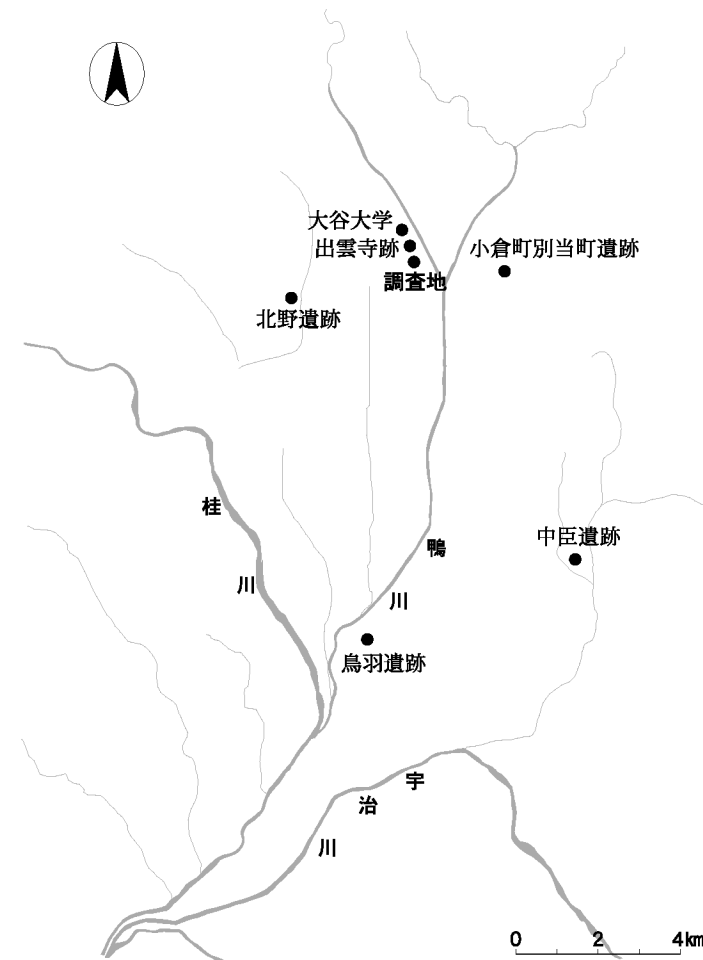
鉄滓・轆の羽口は、竪穴住居数棟の埋土から点々と出土しています。また、土壌280からは、まとめて投棄された状態で出土しました。

瓦は、竪穴住居85・196より出土しました。

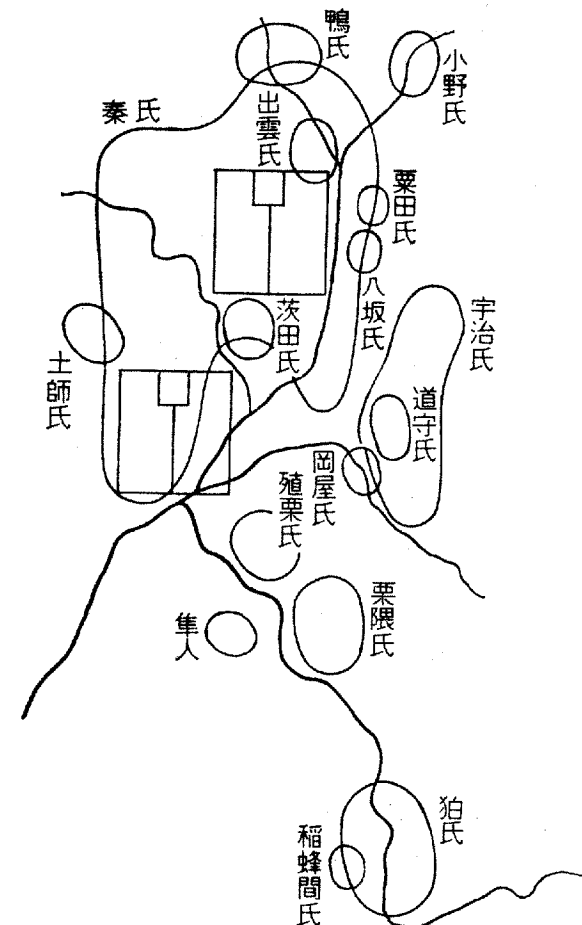
### まとめ

今回発見した集落は、7世紀中頃から後半にかけて営まれていたと考えられます。この時期の竪穴住居がまとめて検出されたのは市内では初めてです。

掘立柱建物は、これら竪穴住居より新しいものです。



飛鳥時代の竪穴住居を発見している主な遺跡  
市内においてこれまで実施した発掘調査で飛鳥時代を中心とした竪穴住居を検出した遺跡を表示した。



### 山城の氏族分布図

井上満郎『京都 躍動する古代』歴史と日本人2  
ミネルヴァ書房 1981年 より転載

相国寺境内発掘調査 飛鳥～奈良時代遺構配置図

